

時代遅れが最先端？

わたしはテクノロジーに弱いです。仕事でコンピューターを使いますが、新しい機能が次々出てきます。だから仕事の内容よりも、それらを使えるようになることに苦勞をしています。スマートフォンを使う場合でも、電話、メッセージの交換、写真の撮影のような基本的なことしかできません。

レストランや買い物に行くと、半分ぐらいの人はアプリで支払いをしているようです。特に若い人が多く利用するコンビニやファーストフード、ファミリーレストランなどでは、アプリで支払う人が多いのではないのでしょうか。

私は現金かクレジットカードしか使いません。いや、「使わない」のではなく、「使えない」のです。恥ずかしいですが、アプリは使い方がわからないので持っていないのです。



しかし、先日、こんなことがありました。高校時代の友達と5人で食事をした時の話です。高校を卒業してから、35年以上たっているので、みんな50代です。お会計の時になって、1人5000円支払うことになりました。すると、5人全員がお財布から現金を出し、アプリを使う人は1人もいませんでした。私はみんなが現金を出したことに驚き、「みんなアプリかと思ったけど、現金なんだね。私はアプリとかテクノロジーがよくわかんないから、みんなが現金払い

でなんだか嬉しいよ。」と思わず言ってしまいました。それを聞いた友達が言いました。「私もアプリ使えないよ。クレジットカードが精一杯。」すると、他のふたりおなじことを言ったのです。5人中、アプリを使えるのは1人で、私を含めた残りの4人は現金かクレジットカードしか使えなかったのです。

ちょっと気になって調べてみました。ある調査によると、支払いをするときは35%が現金派で、65%がキャッシュレス派だそうです。(ただし、このキャッシュレスにはクレジットカードも含まれます。) 20代から40代の若い世代ではキャッシュレス派が多いそうです。日本ではQRコード決済が始まったのは2003年だそうですが、新型コロナのパンデミック以降、非接触型のアプリを使ったキャッシュレス決済が増えたようです。

しかし、最近では比較的若い世代でも現金を使う人が増えていることもわかりました。キャッシュレス決済ではいくら使ったかわかりにくいので、貯金がいにくいというのが理由の一つのようです。現金はお財布の中のお金の減り方が見えるので、無駄遣いしにくくなるそうです。

ニュースなどでは、防災グッズには現金も用意するようアドバイスしています。災害で停電になった場合、クレジットカードやアプリが使えなくなることがあるので、現金を用意しておいた方がいいそうです。

本を読む場合も電子本から紙(媒体)の本を読む人が最近では増えているようで

す。最近電車に乗っていると、紙媒体の読書をしている人が10年ぐらい前よりも増えていることに気が付きます。5年ぐらい前までは、多くの人が電車の中でも本を読む時はスマートフォンやタブレットを使って読んでいました。

私はずっと紙媒体の本を読んでいます。5年ぐらい前のある日電車の中で、80代ぐらいの方に、「最近の人はスマートフォンしか見ていないのに、あなたは紙の本を読んでいるのね。珍しいですね。」と言われました。当時はそれほど紙媒体の本を読んでいる人は珍しかったのです。

しかし、最近ではスマートフォンやタブレットによる読書では目が悪くなるからと、電子本から紙媒体の読書に戻る人が増えているそうです。

キャッシュレス決済と現金払い、電子本と紙媒体の本を比べると、どちらにもメリットもデメリットもあります。でも、災害時には使えなくなることや、目が悪くなるといったデジタルのデメリットを考えると、自分は時代遅れなのではなくて、もしかしたら、「時代の最先端」をいっているのかもしれないと思います。これはテクノロジーに弱い私の負け惜しみでしょうか。

このエッセイをここまで書いたところで、私は旅行をしました。すると旅行先で停電が起こったのです。停電は2日半続きました。ホテルには発電機があり、なんの影響もありませんでした。しかし、小さなレストランやお店は営業できなかつたり、キャッシュレスでの支払いができなくなつたりしました。

滞在^{たいざいちゅう}中^{ちゅう}、毎日^{まいにち}通^{かよ}っていたカフェは停電^{ていでんちゅう}中^{ちゅう}も営業^{えいぎょう}していましたが、支払^{しはら}いは現金^{げんきん}のみになりました。お客^{きやく}さんの中^{なか}にはアプリかクレジットカードしか持^もていなかったため、飲^のみ物^{もの}を買^かえなくて帰^{かえ}って行^いく人^{ひと}もいました。そんな中^{なか}、私^{わたし}は現金^{げんきん}で支払^{しはら}いを済^すませ、おいし^いいホッ^ほトコ^こアを毎日^{まいにち}飲^のめたのでした。



(1842^じ字)

(2025.1 Written by Mami TANAKA)

(All illustrations are sourced from いらすとや (<https://www.irasutoya.com/>))



この作品^{さくひん}はクリエイティブ・コモンズ^{ひょうじ} 表示^{ひょうじ} - 非営利^{ひまいり} - 継承^{けいしょう} 4.0 国際^{こくさい} ライセンス^{らいせんす}の下^{もと}に提供^{ていきょう}されています。この作品^{さくひん}を利用^{りよう}する場^{ばい}合^{あい}は、「たどくのひろば」を出典^{しゅてん}として示^{しめ}してください。

例^{れい}) 出典^{しゅてん}: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.